



山田良助白根警察署長に聞く

暴走族問題を考える

四月上旬の新聞で「暴走の芽」に先制攻撃」という見出しで、県内暴走族の取り締まり記事が掲載されていました。市内でも、相当数の暴走族メンバーがいるわけで、私たち市民もそれらの性格や動向などについて、注目していかなければならないと思うのですが……。

署長 最近における暴走族の形



市内の暴走族地域別構成人員 (昭56.12月末)

■総数(白根市のみ) 45人		
●白根——14人	●白井——1人	
●根岸——7人	●小林——3人	
●鷺巻——6人	●庄瀬——8人	
●大郷——4人	●新飯田——2人	

態は、全国的に見ても非常に悪質化している傾向にあります。暴行傷害、婦女暴行、暴力団との結び付き、対立グループとの抗争など、集団暴走行為のみならずいろいろな犯罪を引き起こしているわけで、これでは一つの非行集団であると同時に、社会からのみ出し集団といわざるをえません。ただ、これらは一部の過激派がや

っていることで、大部分は集団暴走でしか自己主張のできない、どちらかというところの弱い連中が多いようです。ですから、うまく導けば、まだ立ち直らせることのできる若者たちなんです。

走族対策協議会」といった、官民一体の組織づくりが活発化し、本市でも、月潟、味方村を含めた中で昨年発足したわけですが……。

また、このような道へ若者を走らせないためには、なんとといっても家族、地域がこの問題に関心を持ち、一体となった取り組みが大切になってきます。

彼等に対し、警察の徹底した取り締まりを望む声も、強いと思います……。

比較的まじめに働いていたり、学校へ通学しているんですね。ですから親も、自分の子供がまさか暴走族に入っているなんて思ってもいないし、また、地区外でやっているものだから、近所の人たちも知らない。したがって、「よそでの出来事」くらいにしか思っていない、無関心層が多いわけです。

最後に、山田さんは今年白根署長に就任されたわけですが一言抱負をお聞かせください。

署長 白根市のように緑豊かで物質にも恵まれているところは県内にはないと思います。間もなく県内の高速体系も整備されるわけで、こうした豊かなところを都市型の犯罪で汚染されたくない気持でいっぱいです。

ボールが結ぶ確かなふれあい 地区民バレーボール大会



「トス、パス、スパイク」「お父さんがんばって」元気なかけ声が体育館に響きわたります。明るい健全な家庭・地域づくりの一環として行われている地区民バレーボール大会。九年前から毎年、春と秋に行い今回で十七回目を数えました。

「毎回、中学生や高校生が多く参加します。青少年の非行化防止にも一役かっていると思います」と、青少年育成指導員で自らも毎回かかさず参加している斉藤重定さんは話しています。

体育館のギャラリィで昼食。地域の話題が中心に……



永年のライバル同士、新町チームと下中村チームの対決

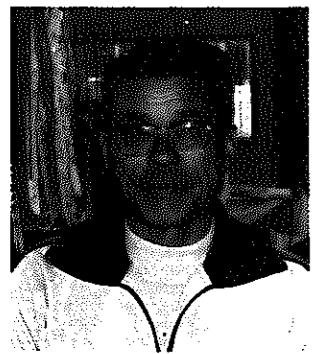
新飯田地区

コミュニケーション

インタビュー

地域の融和と青少年の健全育成を

金子 博さん
地区公民館長



勝敗よりも、地域の融和を第一に行っています。年々、参加者の輪が広がっています。親子でやっている姿は、とてもほほえましいものがありますね。